広報室員になったから
歴代かわら版から学ぼう

＜昭和60年7月号＞

我が　道楽

小川勝四郎

道楽とは本職以外のことに楽しみふけること、私には正直なところ何一つこれと云った道楽はない。先日広報の方が見え、「我が道楽について」と言うことで原稿を書いていただきたい旨依頼があり、私は困り果て、お断りいたしました。しかし会員の方は学生時代に行なっていた陸上競技のことでよいので、かわら版に出していただきたいとのこと、道楽とは云えないが、ありし日の陸上競技について書いて見たいと思います。

昭和三十六年八月インターハイが神戸にて開催、私の専門種目は中距離。第一日目は千五百メートルに出場。予選、準々決勝は楽勝でした。二日目の準決勝、決勝に備え、レースが終ると他の競技を見ることなく、いち早く旅館に戻り休息、しかし神経が高ぶり落ちつかない。しかたなく街へ出かけ夕食の時間に三十分も遅れてしまった。

翌二日目準決勝は十時からである。九時に旅館を出て会場についたのが九時十五分である。レースに備え、二十分程汗を流した。いよいよ準決勝のスタートの時間がきた。スタート前の緊張感が何とも云えない。八名の選手が一斉にスタートラインに並ぶ、ピストルの号砲で一斉に飛び出す。最終コーナーを走りぬけ私の順位は三、四番である。あと十メートル四、五名の選手が白いテープ目指して、ゴールに流れ込む。私は決勝進出資格の四着に入ったと思った。しかし三、四、五着同タイムであったが、残念ながら私は五着であった。私の夢であった全国大会の入賞は無残にもたたれたのである。今でも各競技を見ているとあの時の思い出が脳裏をかすめ胸の鼓動を覚える。

部下とあそび

山本英男

今から数年前、我社でも野球チームを作り、昭島軟式野球連盟に加入し四部の決勝戦まで進出したことがある。

何分少ない社員での野球チーム作りなので、野球が出来る出来ないに関係なくユニホームを着せ、人員をそろえ、仕事が終ると多摩川の大神グランドに集り、夕方遅くまで練習したものである。始めはいやいやながら練習していた社員も、試合に負けた時の悔しさと、勝った時のうれしさを知り、自分から進んで参加し、練習にも熱がこもってきた。

チームワークも出来、技能も向上してくると試合が楽しくなり、日曜日ごとに相手チームを見つけては試合をしたものである。一つの目的に向い社員の力を結集させるには野球は最適なスポーツの様である。

最近は部下との交流も秋の慰安旅行や忘年会での飲み合い位になってしまったが、機会があれば又、社員全員で打ち込める様な、あそびをして見たいと思っています。

日本ミクロコーティング　創立60周年

渡辺信義

当社は大正十四年独逸顔料合名会社として創立し、本年六十周年を迎えることになりました。皆様のお陰でここに満六十年を迎えることができ、誠に有難く感激に耐えません。

創業はドイツ最古の商社L・レイボルド商館の手により、ドイツ製の焙ならびに顔料全般の輸入販売を専業とすることで、同商館より分離独立いたしました。以来半世紀有余にわたり広く出版業界に焙を主軸とした信頼される製品を提供してまいりました。この間、昭和四十年代に入り独自のイノベーションにより開発を進めてきました精密研磨テープの製品化に成功し、業容を飛躍的に拡大することができました。

顧みまると、この六十年の間、世の変遷はめまぐるしいものがありました。当社におきましても決して平坦な途ではありませんでしたが、これを支えに先輩諸賢の並々ならぬ努力の積み重ねがあったことも忘れてはならないことであり、あわせて深甚なる謝意を表するものであります。

「より良い製品を供給することこそ最大のサービス」、これは先代社長の遺訓であります。私ども役員を始め社員一同この理念を今日新たに問いなおし、協力一致して、これからも堅実に歩み続けたいと念願いたしております。何卒これまで以上のご支援、ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

『創立60周年』

広報室　　星野　智

中小企業庁の統計によれば、企業の十年後の生存率は七割で二十年後には五割の企業が倒産・撤退しているそうです。また三十年後がターニングポイントであり経営者の代替わりで経営不安が生じ易い為だそうです。

私が気になったのは、例会やゴルフ部会にも積極的に参加して頂き、誰にでも明るく優しく接し下さる渡辺先輩の記事に着目しました。

渡辺先輩の会社はこの当時で既に創立六十年を迎えられたようで、今年で恐らく九十六年になりあと四年でなんと一世紀になろうとしているようです。先代の社長様の遺訓で『より良い製品を供給する事こそ最大のサービス』であると書かれておりますが、時代が変われど、どんな商売をしていても基本理念は変わらず堅実に歩み続けてこられたからこその結果だと思います。

会社の規模は違いますが弊社も創業六十年になろうかと思います。渡辺先輩のように長くお客様から愛される会社であれるように頑張っていきたいと感じました。

『部下とあそび』

広報室　　長岡　秀明

私自身いつも思う。『1である物』を『2』にするよりも『まっさらな状態の0』を『1』にする事の方が難しいし、誰かに『言われたから仕方なくやる』ではなく、自ら進んで『行動を起こす』でないと人は成長出来ない。

これは私生活も仕事も同じで、自身で行動を起こさない限り何も変わらないと思いました。

例えば、苦手なこと、やりたくない事それをがんばって乗り越えて行うことに意味はあり、自身や周りを変えるには各々の意識改革が必要だと感じています。

会社といった組織で上下関係があっても最終的には人対人、あそびを通じてコミュニケーションをとり親睦を深めていけば、初めは『嫌な人』だった人も次第に『いい人』になるかもしれません。